

7 キャンパス等充実にに関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等の整備については、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえ、以下の方針を掲げながら計画的に行っている。

教育研究等に係る施設設備に関する整備方針

本学の教育研究等に係る施設設備について、以下のとおり計画的に整備する。

1. キャンパスコンセプトに基づいた計画的整備
各キャンパスの教学展開や立地条件等の特性を活かしつつ、大学全体として相互に連携するキャンパスを計画的に整備する。
2. 知的創造を生み出すコミュニティ空間の創出
学生と教職員のコミュニケーションを促進し、学習をサポートする空間を創出する。
3. 機能性の確保
教育・研究・社会貢献活動の多様化やユビキタス環境の進展に対応できる施設を整備する。
4. キャンパスアメニティの実現
学生のライフスタイルを考慮した憩いの空間を創出する。バリアフリー、ユニバーサルデザイン、緑化等に配慮し、すべての利用者にやさしい環境を整備する。
5. 地域との共生
地域コミュニティの中心となるキャンパスを実現する。
6. 危機への対応
災害等に対応できうる危機対応型のキャンパスを整備する。
7. 安全性の確保
安全・防災のため、計画的に耐震補強工事等を実施し耐久性のある施設を順次整備するとともに、防犯や衛生を考慮した環境を整備する。
8. 省エネルギーの実現
地球環境に配慮し、省エネルギーや省コストを実現する合理的な施設設備を整備する。
9. キャンパス・ファシリティマネジメント体制の整備
長期財政計画の下、土地取得や建物の償却期間等を考慮した総合的なファシリティマネジメント体制を構築し、中長期的な経営戦略として教育研究等環境を計画的に整備する。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

○深草キャンパス新1号館（仮称）の建設

深草キャンパス新1号館（2015年1月竣工予定）は、本学の第5次長期計画「RYUKOKU Vision2020」に示されている学生の主体的な活動の支援や、優れた研究基盤の形成、多文化共生キャンパスの実現等に資するとともに、2015年4月に国際文化学部の深草キャンパスへの移転に伴い必要となる機能を整備した施設として、1号館跡地（2013年2月解体）に建設する。

○BEMS（Building and Energy Management System）の遠隔化

深草キャンパスに遠隔監視PCを設置し、大宮キャンパス・瀬田キャンパスを含めた本学におけるエネルギー使用状況を一括管理できるように整備する。このことで、エネルギー使用状況を詳細に把握することができ、データに基づいたエネルギー削減計画を検討することで、本学全体の省エネルギーを一層推進することが可能となる。

○バリアフリー工事の実施

バリアフリー推進事業として、21号館東入口及び5号館1階キャリアセンター北側扉を自動扉に改修する。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

○西翼新棟省エネルギー対策工事

西翼新棟の照明を省エネルギー対応照明に取り替えるとともに、窓ガラスに遮熱フィルムを貼付け、夏は断熱効果によって冷房効率をアップし、冬は保温効果を高めることで、大宮学舎における省エネルギーを推進する。

○西翼新棟空調熱源整備工事

設置後28年経過している西翼新棟の熱源を更新し、適切な環境を確保する。更新に当たっては、空調の効率化と省エネルギー推進の観点から、熱源を空冷ヒートポンプ式に変更する。

○バリアフリー工事の実施

バリアフリー推進事業として、清和館入口に自動扉を設置する。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

○建物群の経年劣化対応改修工事

2号館・3号館（旧館）・6号館の屋上防水、RECホール・青志館の熱源機器、1号館・青志館の空調換気設備等、建物本体及び設備関係の劣化や機能低下等に対応するため、適切な修繕・更新工事を実施する。

○エントランスバリアフリー化工事＜1年目：2年計画＞

1号館・3号館・4号館・体育館の主たる出入り口を自動ドアに改修して、利用し易く人に優しい施設整備を行い、適切な教育・研究活動が行えるようバリアフリー化の推進・充実を図る。

○障がい者に配慮した外構整備＜2年目：3年計画＞

障がい者対応の一つとして、外構に設置している点字タイルを点字ブロックで再整備し、健常者を含めたキャンパス内での安全な移動の手助けを行うとともに、インターロッキングの不陸（凸凹）の調整を行い、歩行障害や雨水等による水たまりの改善を図る。

○学生交流スペース増設工事

6号館前ブリッジの拡張・整備、並びに学生交流会館前の屋根を拡張し、食事スペースや交流スペースとしてのベンチテラスを増設する。これによりアメニティーの拡充を図る。

○理工学部の教育・研究装置の整備

理工学部の教育・研究に使用される「3次元対応微小領域分析システム（入門から高度・専門レベルに対応する各種走査型電子顕微鏡（SEM）と集束イオンビーム（FIB）及びArイオンビーム加工機からなるシステム）」を調達・整備する。

4 その他の施設・設備・備品等の整備

○セミナーハウスともいき荘空調改修工事

適切な空調環境を維持するために、セミナーハウスともいき荘の地階・1階・5階の空調設備を更新する。

2 情報システム関係について

無線アクセスポイントの増設及びキャンパス間接続回線・学外接続回線の強化事業を適切に実施し、本学情報基盤の充実整備を図る。併せて、eラーニングシステムの更新事業により教育基盤を充実することで利用者へのサービス向上をめざす。

さらに、2012年度にリプレイスを完了した「基幹事務システム」及び「Web系サービス（ポータル、シラバス、履修登録等）」については、利用者（学生・教職員等）へのさらなるサービス向上を図る。また、災害時においても事業が継続できるようにするための災害復旧システムの構築は、2013年度も引き続き実施し、本学諸事業に関わる不測の事態への対策とする。

1 総合的基盤整備

○無線ネットワークの強化拡張

現在、本学3キャンパスに276カ所設置している無線アクセスポイントについて、ノートブックPCやタブレットPC等のモバイル・デバイスを利用した講義やゼミ、課外活動等でさらなる活用が可能となるよう、年次計画をもって増設を進める。2013年度は各キャンパスとも教室を中心に整備する。

○対外接続等基幹ネットワークの強化

キャンパス間及び学外との通信量の増大に対応するため、キャンパス間回線及び学外接続回線の見直しを行う。学外回線の一つは、SINET京都データセンターへの直接接続に切り替える。これによりテレビ会議や動画コンテンツ（例：YouTube、USTREAM）の利用を含めた利便性の向上を図る。

2 教育環境の整備

○eラーニングシステムの更新

本学のeラーニングシステムのハードウェア及びソフトウェアを一新し、教育基盤を再構築して利用者に提供する。なお、ソフトウェアのバージョンアップに伴い、教材（コンテンツ）の継続的な利用可否や移行作業等を考慮して、少なくとも1年間は旧システムと並行運用し、安定した教育基盤を維持する。

3 事務システムの整備

○基幹事務システムとWeb系サービスの機能充実

基幹事務システム及びWeb系サービス（ポータル、シラバス、履修登録等）は、2012年度にリプレイスを完了し、相互のシステム間連携を強化した。2013年度については、Webで確認可能な情報を充実させるとともに、申請内容

に応じてWebでの申請を可能とするなど、利用者にとってさらなる利便性の向上を図る。

